

JGS ニュースレター44号 (2019/令和元年9月発行)

## JGS 宝石シンポジウム 魅惑たっぷり多彩なガーネット 第二弾 ～ガーネットを語らずして宝石は語れない～

REPORTED by 江川 麻紀

第16回 JGS 宝石勉強会シンポジウムは、日独宝石研究所所長 古屋 正貴氏を講師に迎え、「魅惑たっぷり多彩なガーネット 第二弾 ～ガーネットの魅力を語らずして宝石は語れない～」…鉱物ではなく宝石としての分類…というテーマで行われました。



そして講演名を～シン・ガーネット～として始まった講義。

「新」？「真」？それとも「神」？もしかしたら「進」？はたまた「親」？

宝石学を学び始めたときからガーネットグループの複雑さが引き起こす難しさに頭を悩ませていたので、シン・ゴジラならぬ「シン・ガーネット」とカタカナの表題が目に入った途端、その解釈の多さにますます興味が湧きました。

市場に一番多く出回っているのがアルマンダイトガーネットだと思っていたので「パイロープやスペサタイトガーネットが混じっているものが多く、純粋なアルマンダイトガーネットは意外と少ない」との話には大変驚きました。

逆に市場に一番多いとされているのがロードライトガーネットとのこと。パイロープ・アルマンダイトガーネットの屈折率内で地色に紫色が含まれているときのみに付けられる変種名がロードナイトガーネットと記憶していたのですが、今は成分分析と屈折率にて分類されているそうです。分析機械が進化していくと新たなことが解明されていくので、ブラッシュアップの必要性をより感じました。



JCS 一般社団法人 日本宝石協会		2019年7月11日	
番号	試料写真	名称	正解
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			

講義の後の観察・クイズはドキドキ緊張しながらも楽しかったです。デマントイドガーネットは全問正解で喜び、深く暗い緑色に惑わされてカラーチェンジガーネットだと気付かなくてしょんぼり、赤褐色系のスペサタイトガーネットをマラヤガーネットとことごとく間違えてがっかり。と、答え合わせに思わず一喜一憂してしまいました。

ガーネットグループの複雑さを魅力とし、大いに楽しんでより積極的にお客様へと紹介していこうと思えた機会となりました。ありがとうございました。